



いのちに合掌

慈眼 JIGEN

第37号

2面…なぬかあったら寺さ行げ
3面…あの世・この世
4面…県内行事報告

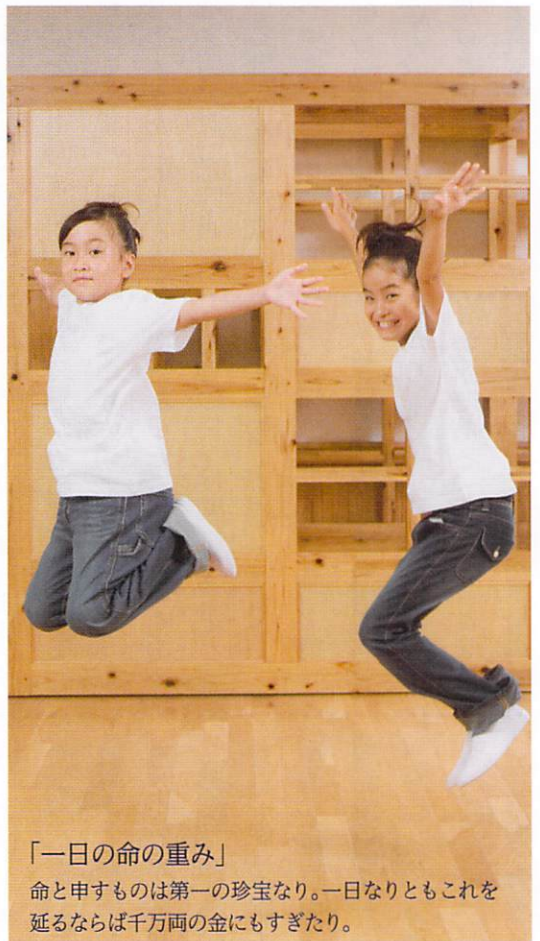
「慈眼」とは…
慈悲の心をもって衆生(生きとし生けるもの)を見る仏・菩薩(ぼさつ)の目。

●発行所：日蓮宗佐賀教化センター 佐賀市大和町梅野267-2 親正寺内 ●発行責任者：宝蔵寺学親 TEL 0952-62-0066

日蓮宗佐賀県宗務所ホームページ <http://nichiren-saga.jp/> 日蓮宗佐賀 検索

「鶴は千年、亀は万年」という言葉があるとおり亀が長寿なことは知られていますが、ガラパゴスゾウガメで推定180～190年です。ほ乳類で見れば、最近の調査でホッキョククジラは150～200年生きているものが数頭見つかったり、最長寿のものは211才だそうです。

地球上で最長寿命の生き物は？



「一日の命の重み」
命と申すものは第一の珍宝なり。一日なりともこれを延るならば千万両の金にもすぎたり。

さて、私たちの平均寿命は80年くらい。ペットを飼っているご家庭は多いと思いますが、犬の寿命は10年くらい。よって、寿命が短い分犬の一日は人の八日分の価値があることになるのです。大切な一日ですね。しかしながら、平均寿命というのは統計学上のものであって病気や事故や災害にいつ遭遇するか分かりません。そう考えてみると犬の一日は人の八日分の価値ではなく、本当は無限の価値があるのです。人の一日も命に及ばず。

一日の命の重み

ここで、説明しやすいように「価値」という言葉を使いましたが、命に対して「価値」という表現は適切でないので「重み」とでも表現した方がいいかもしれません。

日蓮聖人は、「一日の命の重み」を次のようにご教示されています。

「命と申すものは第一の珍宝なり。一日なりともこれを延るならば千万両の金にもすぎたり。」

人により、かけがえのない宝物は様々あるでしょうが、何物にもかえ難い宝は命であり、巨万の富と引きかえても一日の命を延ばすことはできないのです。

昨年は大きな震災がありましたし、身近に危惧する処としては交通事故等も絶えません。今日は元気であっても明日には何が起るのか分からないのです。

一日一日を大切にしたいものです。

大震災をとおして

何かあったらお寺に

昨年三月十一日の東日本大震災、最大の被災地である石巻(死亡者・行方不明者数約二八〇〇人)。想像も絶する災害の爪痕は一年の月日が経っても大きな変化を見せること

はありません。震災後は法音寺が避難所となり、避難者の方たちと一緒に力を合わせて命を繋ぎできました。沢に水を汲みに行き、薪を切り、食べ物を持ち寄り、避難者一五〇人とのサバイバル生活が続きました。お寺は高台にあり被害は少なく、避難場所に指定されていたので水や米等の備



蓄もしていました。地域の住民も逃げることで高台があつたので犠牲者の数は少なかったと言えます。田舎で地域の繋がりがあつたのが救いでした。一人暮らしの老人がどこに住んでいるかすぐに分かり、皆で避難させました。またトイレも汲み取り式で使用する事ができ、だるまストーブもあつたので避難所の環境は良い方であつたと言えます。古いままであつた設備が大変活躍し、田舎は災害時には強いなと感じました。

私に最初を感じたのは若い自分がかつて頼りにされるのだということでありました。当日は余震も多くパニック状態で「お上人さん、お上人さん」と袖を引かれ、過呼吸になっている老人、情報が欲しいという男性、骨折している女性に助けを求められました。救急車などは呼べない、ただ祈るだけという現状でありました。それと同時に自然に

対して人間はいかに無力であるかということ痛感しました。震災から一年経過した現在、檀家の多くの方々が仮設住宅で生活をしています。地域が崩壊し仮設住宅に移り住んでから、同じお寺の檀家だと分かると安心して話すことができ、一緒にお参りに行くなど新しいコミュニティが形成されつつあります。お寺で行事があるとそれぞれ別の場所ですべて生活している檀家の方々が集まり、震災前まで近所だった人々とお茶を飲みながら話をしていきます。徐々に会うので話も弾みます。今まで通りの行事を継続して行う事が大切であり、住民同士の繋がりを維持していくのにお寺の持つ役割は重要だと思



技術本位

佐賀の老舗

信用本位

辻の堂のぶつだんや

(株)本庄仏具総本店

〒840-0832 佐賀市堀川町(辻の堂) ●TEL 0952-23-2955(代)

佐賀県警友会指定 本下株式会社 草苑

OMEGA ALPHA SAAL 木下株式会社

北佐賀草苑 TEL 0952-30-4040 FAX 0952-30-4043 佐賀市兵庫町1115	南佐賀草苑 TEL 0952-25-1255 FAX 0952-25-1088 佐賀市本庄町本庄951-10
大和草苑 TEL 0952-64-8448 FAX 0952-64-8447 佐賀市大和町尼寺722-1	鳥栖草苑 TEL 0942-82-6430 FAX 0942-82-6502 鳥栖市古賀351-1

お彼岸とは...

自分の煩惱(苦の原因)と向き合い、
自分の行いを省みて「到彼岸」につとめる

「お彼岸」とは年に二回、春分と秋分の日を中日とするそれぞれの七日間のことを言うのですが、仏教において「お彼岸」とは、迷いの世界(此岸)から悟りの世界(彼岸)へ渡ることを目指す『修行の期間』であると言われていきます。

その悟りへの道というのは、布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧の「六波羅蜜」を實踐することです。布施とは人に施すこと、持戒とは戒律を持って生きること、忍辱とは耐え忍ぶこと、精進とは努力



存在を信じ、思い、手を合わせれば、そこに
ご先祖さまはあらわれます。

すること、禅定とは心を落ち着けること、そして智慧とはこれらの実践によって物事の道理を知ることです。この六つの行いを、実践することで迷いの世界から安らぎの世界へ渡ることが出来るのです。少し難しい言葉を並べてしまいました。要するに『自分の煩惱(苦の原因)と向き合い、自分の行いを省みて「到彼岸」につとめること』が彼岸に込められた仏教の願いであるのです。

また、お彼岸はお盆や施餓鬼等と同様、ご先祖さまへの供養につとめる時でもあります。お墓に行ってお花を供え、お線香をあげて手を合わせる、そのような時間を作ることが、ご先祖さまに対す

る報恩感謝になるわけでございます。

最近、本やテレビで「お墓離れ」の問題をよく目にします。また、悲しいことにお墓の存在自体をも否定する方もいらっしゃるようです。

もちろん、お墓にご先祖さまがいると言っても、目に見えないわけではありませんし、触れることも出来ません。しかし、その存在を信じ、思い、手を合わせる人がいれば、そこにご先祖さまはあらわれます。数えきれない程のご先祖さまが、それぞれの「いのち」を繋げてきて下さいました。今ここに生きている我々が、何よりもその証拠ではないでしょうか。誰か一人でも欠けていたら、繋がりを途絶えさせてしまったら、自分という人間がこの世に存在することは決して無かったでしょう。その繋がりに意味を見つけ「お陰さま」と感謝することが、人として生まれて

きた私たちの役割でありました。

お釈迦様が「この世のすべてのものは多くの縁が集まって存在し、そして何者も永遠に留まり続けることは出来ない」と説かれているように、私たちは考えも及ばないほどのたくさんの縁が結びついてこの世に生まれてきました。季節が移り変わりながら繋がっているように、あの世との世、そして私たちとご先祖さまも繋がっているのです。

お墓の前で亡くなった人と、遺された人が共に集う光景は、ぬくもりのある大変美しいものです。たしかに、生と死は隔絶された世界かもしれませんが、けれど、亡き人を遺された人が思う時、そこには確かに通い合う「こころ」があるのです。この大きな縁に感謝し、安らぎの彼岸へと到ることを願いながら生きていくことを誓う日、それが「お彼岸」なのであります。



- ・仏壇 ・仏具 ・寺院用具
- ・修理全般 ・別注仏具工事一式

手を合わせるころを大切に・・・

山本仏具

佐賀市呉服元町10-12 23-4308
〒840-0824 ☎(0952)

平成24年度・創業90周年目、仏壇・仏具の総合専門店

光古賀仏壇店

3代目 代表取締役社長 古賀宏昭

本社 ☎840-0813 TEL(0952) 23-5521
佐賀市唐人町1丁目2-25 FAX(0952) 23-5564

平成23年の
県内行事
報告

管区寺院総代統一信行・
檀信徒協議会総会

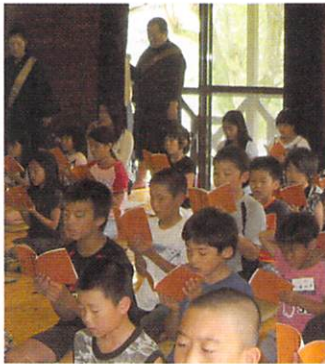
《7月3日》

佐賀県全体の総代会が、小城市の鎮西本山松尾山護国光勝寺（以下、光勝寺）（平井日延貫首）にて開催されました。お題目修行を行う信行会が午前中に、午後からは運営・連絡会議である協議会総会が行われました。

第四十八回
青少年学道場

《7月25日～27日》

青年会主催による、青少年学道場が開催されました。小城市の三日月野外研修センター



において、五十名程の子供達と共に、お経の練習と勉強をして過ごしました。

檀信徒研修道場
護法のつどい

《十月二十九日》

佐賀地区の檀信徒の皆様を中心に、信仰増進に励む為の行事が、佐賀市の妙常寺（眞木辨決住職）において開催されました。法要の他、和讃の奉納や、お説教が行われました。

松尾山光勝寺 御会式

《11月12日・13日》

小城市にある光勝寺において、御会式が行われました。万灯講と纏（まと）い隊の皆様によって、お寺までの道が、賑やかに彩られました。参拝の方々は、平井貫首と共に、日蓮大聖人への報恩感謝の祈りを捧げられました。

九州地区檀信徒研修道場

《11月16日・17日》

九州地区全体の檀信徒研修会

九州地区全体の檀信徒研修会が、武雄市のなかもす旅館で開催されました。また二日目は、小城市の光勝寺への参拝が行われ、各地よりの篤信の皆様は、より深い信仰を身に付けていました。

施設訪問 小城市清水園

《11月3日》



社教会のメンバーとの交流

毎年行われている社教会の施設訪問、今年は小城市の清水園でした。音楽バンドである「小城市ウィンドアンサンブル」の皆様と共に、施設の方々と交流の時間を過ごしました。

歳末助け合い運動

《12月21日》

歳末助け合い運動の一環として、佐賀市内を青年会の行脚隊が、お題目を唱えながら歩きました。尚、皆様から頂戴した募金は、佐賀新聞社を通じて、寄付させて頂いております。



佐賀市内で太鼓を叩く青年僧

お詫びと訂正

前号第三十六号において、内容に誤りがございました。
◎一面 日蓮聖人御遺文 報恩抄 文中
誤 無限地獄 ↓ 正 無間地獄
◎四面 役職紹介 寺庭婦人会会長
誤 辻 小夜子 ↓ 正 辻 セツ
関係の皆様方には大変ご迷惑をおかけしました。謹んでお詫び申し上げます。

設計 石の雅 施工
www.ishinomiyabi.jp
平川石材店
小城市上町 ☎73-4738
石材・墓石に関することは、すべてお任せ下さい。

総合葬祭 株式会社 黄城
葬祭会館 光雲閣
〒845-0022 佐賀県小城市三日月町久米2134-1 (JR小城市西)
黄城代表番号 ☎(0952)-73-4738
光雲閣 ☎(0952)-73-4020